1.概評

質問項目12の内、全学平均と同じ項目が2つ(No.2・3)、平均を下回るものが1つ(No.4)、その他の項目は全学平均を上回った数値となっており、概ね良好と認められる。毎年課題となる自主的な学習については、更なる改善を図る。

[学生]

シラバスの確認については、平成19年度前期から0.1ポイントずつ上昇を続けており、学生の中でもシラバスの確認が定着してきた状況が伺える。一方、自主的な学習が全項目中最も低い数値であることは変わらず、今後も最重要課題として取り組む。授業への取り組み、出席状況は、前年度と同様の傾向を示し、概ね良好と認められる。

[授業[内容]]

授業内容とシラバスとの整合性、また学生の理解度に応じた授業運営についての評価は、前年度後期と同じ数値で、概ね良好と認められる。

[授業[教え方等]]

教授方法については、前年度同様全ての項が全学平均を上回る数値となっており、学生の満足度は高いことが伺える。但し、前年度後期の数値に比べ、0.1ポイント下がった項目(No.7・8)もあり、今後も更なる改善に努める。

[環境・設備等]

学習環境については、前年度と同様の数値で、概ね良好と認められる。参考資料については、更なる充実を図るべく、教員への周知を徹底していきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	4	7	35	39	前年度に比して0.1ポイント改善し、シラバス確認についての一定の理解が得られた。一方3.5以下の科目は必修科目や基礎科目が多く、今後も継続して周知する。
2	3.9	0	0	0	4	41	40	前年度と同じ数値であった。数値の高い科目は、実習・演習系科目の他、上級学年向けの科目であった。低い科目は、必修や基礎科目が多い。
3	4.3	0	0	0	0	1	84	前年度に比して0.1ポイント改善し、学生の出席状況は、良好である。
4	3.4	0	1	8	32	38	6	前年度と同じ平均値であるが、科目数では、3.5以上の科目が半数以上となり、わずかながら改善する傾向が認められる。今後も各授業での対応を求める。
5	3.8	0	0	1	12	44	28	前年度と同じ数値で、ほぼ良好と認められる。数値の低い科目は、シラバスの確認も十分でない傾向が指摘できる。該当科目に周知していく。
6	3.9	0	0	1	14	31	39	前年度と同じ数値で、概ね良好である。数値の低い科目の受講者数は平均約50名、高い科目は約25名であった。
7	4.0	0	0	1	6	26	52	前年度に比して0.1ポイント低い数値となったが、概ね良好と認められる。
8	4.1	0	0	0	3	24	58	前年度に比して0.1ポイント低い数値となったが、概ね良好と認められる。
9	3.9	0	0	0	11	37	37	前年度と同じ数値で、ほぼ良好である。大教室を使用している科目に数値が低くなる傾向が認められる。
10	4.1	0	0	0	4	25	56	前年度と同じ数値で、概ね良好である。
11	4.1	0	0	1	1	27	56	前年度と同様、概ね良好である。3.5以下の科目については、状況を確認した上で、教室配置を検討する。
12	3.7	0	0	1	13	52	19	前年度と同じ傾向を示した。数値の低い科目に、非常勤講師担当の科目が認められることから、各教員に対して更に周知し、資料の充実を図る。

3. 今後の方針

- 1 自主的な学習や授業に対する取り組みにおいて、数値の低い科目として、下級学年向けの科目が認められた。基礎学力をより高める上でも、学生の学習意欲を喚起する取り組みを行うよう、各授業担当者に周知し、改善を図る。
- 2 教授方法については、一定の評価を得ているが、学力差の問題等も指摘されていることから、授業公開などの機会を利用し、教員相互の意見交換を行い、更なる改善に努める。
- 3 基礎学力が低下していることを考えると、6の「授業内容を理解できたか」の平均値に大きな変化がないのは、授業内容の平易化が起こっている可能性がある。今後も数値の推移を注視していきたい。

1.概評

学科平均が全体平均より下回っているものが 12 項目中 2 項目(No.2、No.3)、上回っているものが 1 項目(No.12)、それ以外は同じ数値であった。概ね良好な結果となっているが、全ての項目において改善が図れるよう引き続き検討していきたい。

〔学生〕

シラバスの事前確認(No.1)と授業外の自主的な学習(No.4)は 3.5 ポイントと全項目中で最も低い評価となっている。教室での積極的な取り組み(No.2)と出席状況評価(No.3)については、全体平均よりもそれぞれ 0.1 ポイントではあるが下回る結果となっている。学生に対して、教室の内外でより積極的・自主的に取り組むよう奨励していきたい。

〔授業〔内容〕〕

両項目とも全体平均と同じ数値である。授業内容の理解(No.6)については 3.8 ポイントで、約 80%の学生は授業をよく理解できていると評価している。

〔授業〔教え方等〕〕

全項目とも全体平均と同じ 3.8~4.0 ポイントという高い数値となっている。授業(教え方等)について概ね満足という評価といえよう。公開授業などの FD 活動を通して、より効果的な授業運営を検討していきたい。

〔環境・設備等〕

学習環境(No.11)については全体平均と同じ 4.0 ポイントと高い数値となっている。図書館(No.12)については、3.6 ポイントと全体平均を 0.1 ポイント上回っている。今年度から必修授業で使用する副教材を図書館に置いていただくようにした。数値的にはまだ改善の余地があるので、引き続き方策を検討していきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.5	0	1	11	47	35	19	学科平均が前年度より 0.1 ポイント上昇している。WEB履修が始まり、選択科目はシラバスの確認をしているようだが、必修科目の評価が総じて低い。
2	3.8	0	0	2	20	53	38	学科平均は前年度と同一である。英語で行うコンテンツコースおよびスピーキング系のスキル科目の評価が高くなっている。
3	4.1	0	0	0	5	37	71	学科平均は前年度と同一である。週 2 回ある習熟度別スキル科目の特定のクラスおよび再履修クラスの評価が低くなっている。学生の積極的な出席を促す授業運営が必要である。
4	3.5	0	0	12	47	44	10	学科平均は前年度より 0.1 ポイント上昇している。3.0 未満の科目(12)のうち、その約半数(5)が、統一シラバスを使用する同一科目である。当該科目のコーディネータには、授業外の自主的な学習を促すシラバス作成を依頼する。
5	3.6	0	0	6	39	47	21	学科平均は前年度より 0.1 ポイント上昇している。スキル科目の中に評価の低いものが見られる。これは統一シラバスを履修者の理解度に合わせて調整した結果と推測される。
6	3.8	0	1	7	15	46	44	学科平均は前年度と同一である。3.5 以上の評価が全体の約 80%を占めており、ほとんどの学生は授業内容を理解できていると評価している。
7	3.9	0	2	6	14	32	59	学科平均は前年度と同一で、高い評価となっている。
8	4.0	0	1	7	11	29	65	学科平均は前年度と同一で、高い評価となっている。
9	3.8	0	1	3	28	37	44	学科平均は前年度と同一である。視聴覚機器を有効活用した授業を今後も進めていきたい。
10	3.9	0	1	2	21	41	48	学科平均は前年度より 0.1 ポイント上昇している。今後も FD 活動等を通して、効果的な資料や教材の作成にあたりたい。
11	4.0	0	0	2	14	36	61	学科平均は前年度と同一で、高い評価となっている。3.0 以下の 2 科目については、受講人数に対してスペース(半教室)の問題があったが、他に空き教室がなかったためこのような結果となった。
12	3.6	0	0	2	40	58	13	学科平均は前年度より 0.1 ポイント上昇している。今年度から必修スキル科目の課題となる副教材を図書館に置いていただいたことが、ポイント上昇につながった。

3. 今後の方針

(1) シラバスについて

WEB履修が今年度から始動し、シラバスがこれまで以上に履修科目選択において重要になるため、教員に対しては、より具体的で分かりやすいシラバス作成をお願いしていきたい。学生に対しては、選択科目だけでなく、必修科目についてもかならず事前にシラバスを確認するように徹底していきたい。

受講者の理解度によって授業の途中でシラバス内容を調整、変更する場合は、その都度、受講学生に周知させるよう教員に対して注意を喚起したい。

(2) 学生の学習に対する姿勢について

学生が教室の内外でより積極的、自主的に学習に取り組むことができるよう、シラバスの作成、授業の運営の工夫を学科で検討していきたい。その際、授業公開等のFD活動を有効活用したい。

(3) 学習環境における問題について

明らかに問題があった科目(履修者人数に対して割り当て教室が小さかった)については、来年度からクラスサイズを再検討するとともに、適切なサイズの教室の確保に努めたい。

(4) 図書館の利用について

今年度から必修科目の課題となる副教材を図書館に置いていただいたため、図書館を訪ねる学生の増加につながった。今後もこのような連携を図書館と図っていきたい。また、図書館のより有効な活用については、学科から図書館に依頼している1年生と3年生対象のガイダンスを通して、学生に周知させたい。専門科目に関する参考図書については各授業の中で学生に紹介していくようにしたい。

1.概評

前期開設科目のうち 10 名以上履修者のいる69科目についてアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が1、全体平均と同じである項目が2、やや下回る項目が8、前年度より全体平均を下回る項目が増えたが、点数としてはほぼ前年度並みで、全体的には歴史専門科目は問題なく授業が行なわれていると判断できる。

[学生]

出席状況は良好で (No.3)、授業にはまじめに取り組んでいるが、授業外での自主的な学習への取り組みには、多少弱い面が見られる。

[授業[内容]]

授業内容は全般的によく理解されているといえる。

[授業[教え方等]]

話の仕方、板書やパワーポイントの使い方、視聴覚教材、配布資料等について、学生は概ね満足しているようである。ただし、履修者数等によって評価のされ方に違いがでるかもしれない。

[環境・設備等]

履修者は増えた授業が多いせいか、前年度に比べやや評価は下がったが、全体的には学習環境への満足度は高い。参考図書に関しては、常に更なる充実をめざしたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.7	0	0	2	10	48	9	前年度同様全体平均より2点高く良好といえるが、必修の授業のシラバスが引き続きみられていない傾向にある。
2	3.8	0	0	0	8	42	19	今回は全体平均より1点低いが、ほぼ前年度並みの点数である。授業への取り組みは概ね良好といえる。
3	4.3	0	0	0	0	4	65	全体平均と同じ。前年度とも同じ点数で、出席状況は良好である。
4	3.3	0	0	12	37	17	3	全体平均より2点低く、前年度前期の評価と同じ点数である。必修・実習系授業での評価が低い傾向にあるのも前年度同様である。
5	3.5	0	0	1	25	40	3	全体平均より1点低く、前年度と比べても低くなっている。シラバスはみても内容の記述もしくは学生の確認が十分でない可能性がある。
6	3.7	0	0	1	18	35	15	今回は全体平均より1点低いが、ほぼ前年度並みの点数である。授業内容はよく理解されている。
7	3.8	0	0	0	14	27	28	今回は全体平均より1点低いが、ほぼ前年度並みの点数である。概ね説明は明快だと評価されている。
8	3.9	0	0	0	9	28	32	全体平均より1点低い。概ね話はよく聞き取れている状況ではあるが、前年度よりも1点下げているのは履修者数の増加と関係があるかもしれない。
9	3.7	0	0	1	18	31	19	全体より1点低いが、前年度と同じ点数である。どちらかといえば視聴覚教材を使用する授業が高評価になる傾向がみられる。
10	3.9	0	0	1	9	32	27	全体平均と同じ。前年度より1点高くなった。概ね良好で、ほとんどの学生が満足していると判断できる。
11	3.9	3.9	0	1	9	25	34	全体平均より1点低く、前年度よりも1点下げている。履修者数の多い授業が増えたためかと思う。
12	3.5	0	0	1	29	35	4	全体平均と同じだが、学科の特性上、評価を上げる努力を続ける必要がある。

3. 今後の方針

1. 当学科の学生は、出席良好で授業内ではまじめに取り組む一方で、授業以外での学習に関して積極性に欠ける傾向がある。これは以前から見られる傾向で、いかに自主的な学習を促すかは恒常的な課題である。授業内での課題、博物館・美術館の展覧会や講演会、公演の紹介や案内等の方法で、今までも学習意欲の喚起をはかってきたが、その時々々の学生の状況に応じた方法の点検と工夫が求められる。

2. WEB履修登録への切り替えの伴い、シラバスの事前確認が向上した。引き続き徹底を促し、習慣化したい。

3. 今回全体平均を下回る項目が増えたが、WEB履修登録開始に伴い履修者(他学科からの)を増やした授業が増加したこととの関連を考える必要があるかと思う。その上で、履修者に応じた教え方・配布資料等の点検と工夫、また授業における履修者の範囲の再検討等を行ないたい。

4. 学生の授業評価を単なる数値結果で判断するのではなく、大人数の必修授業・実験実習系授業・上級者向け少人数授業等各々の評価の違いを分析し、各授業の特性に即して活用していきたい。

5. 学科の特性上、参考図書の充実は常に心がけていかなければならない。積極的かつ継続的に取り組んでいきたい。

1.概評

全体としては前年度の評価よりも改善されており、極めて良好な状態であるといえよう。

[学生]

シラバスの事前確認をしている学生の割合、自主的学習をしている学生の割合と授業に積極的に取り組んでいる学生の割合が前年度よりも上昇した。自主的学習をしている学生の割合がやや低めである理由は、授業外での課題は大量にこなしているが、それを自主学習に含めて捉えていないためと考えられる。

[授業内容]

授業内容の理解度は前年度よりも上昇したが、シラバスと授業の整合性の評価は昨年と同様であった。授業ごとに大きな差があることを指摘し、学科全教員に再点検を要請したい。

[授業(教え方等)]

大学全体の評価とほぼ同様で、良好な評価であった。特に話の聞き取りやすさと板書・視聴覚機器の使い方の適切性に関する評価が昨年よりも上昇した。

[環境・設備等]

人数規模に合わない教室で実施されたために、学習環境に関して極めて低く評価された授業もあったが、総じて良好な評価であった。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.6	0	0	2	4	11	5	大学全体の平均より0.1ポイント、昨年より0.2ポイント上昇した。クラス主任を通してさらに指導を徹底したい。
2	3.8	0	0	0	1	10	11	大学全体の平均とほぼ同値である。昨年より上昇し、良好といえる。
3	4.4	0	0	0	0	0	22	大学全体の平均より0.1ポイント高く、昨年と同値であり、非常に良好である。
4	3.2	0	0	4	11	5	2	大学全体の平均より0.3ポイント低いが、昨年より上昇した。自主学習を促す指導を実施したい。
5	3.4	0	0	2	7	10	3	大学全体の平均より0.2ポイント低いが、昨年度と同値であった。学科全教員に再点検を要請したい。
6	3.6	0	0	1	7	6	8	大学全体の平均より0.2ポイント低いが昨年より上昇した。引き続き授業担当者に改善を要請したい。
7	3.7	0	0	1	3	8	10	大学全体の平均より0.2ポイント低いが昨年と同値であった。引き続き授業担当者に改善を要請したい。
8	3.9	0	0	0	2	8	12	大学全体の平均より0.1ポイント低いが昨年より上昇した。良好といえる。
9	3.7	0	0	0	4	9	9	大学全体の平均より0.1ポイント低いが昨年より上昇した。良好といえる。
10	3.8	0	0	0	3	9	10	大学全体の平均より0.1ポイント低く、昨年と同値であった。良好といえる。
11	3.8	1	0	0	1	8	12	大学全体の平均より0.2ポイント低いが、昨年度より上昇した。良好といえる。
12	3.4	0	0	0	14	8	0	大学全体の平均より0.1ポイント低いが昨年と同値であった。やや低めである。引き続き改善を要請したい。

3. 今後の方針

全体として昨年度前期よりも評価が上昇し、良好であるといえるが、授業内容とシラバス内容の整合性に関して、評価の低い授業があったことから、学科教員全員で再度確認する機会をもちたい。

授業内容の理解度や教え方については良好な評価といえるが、大学全体の評価よりもやや低めであるため、この結果を学科教員間で共有し、さらなる改善を図りたい。

学習環境に関しては、一部の授業で人数規模に合わない(狭い)教室で授業が実施されたことに関して低い評価がなされたが、総じて良好ではあるといえよう。

図書館資料の充実度に関しては、昨年同様にやや低めの評価であった。引き続き専門書や専門雑誌を中心に、授業に必要な資料を中心に購入の要請をし、改善を図りたい。

1.概評

[学生]

全体に前年度並みかそれ以上の評価となっており、3.0 以下の評価となった科目はなかった。特に、出席状況は9割近くの科目で4.0 以上の評価となった。シラバスの事前確認は、WEB 履修登録の効果が出ているが、1 年生にはシラバス確認の意味や重要性をガイダンスで周知する必要がある。授業への積極性や授業外での自主的な学習については、演習・実習系科目に比べ、講義科目や多人数科目では低めの傾向にあるので、授業の進め方や教員による課題提示などの工夫が求められる。

[授業[内容]]

シラバスと授業内容の一致は、WEB 履修登録の実施もあり、年々高まってきている。授業内容の理解も演習・実習系科目を中心に評価が高く、学科平均のポイントもアップした。授業理解に関しては、授業環境との関連性がうかがえる。教室の広さと受講生の人数への配慮が必要である。

[授業[教え方等]]

全項目においてポイントがアップした。その中で点数の高低は、教員の個人差による部分が多いと思われるので、FD サロン等への参加を含め、教員各自のさらなる自己研鑽と公開授業の活用等が求められる。

[環境・設備等]

学習環境、図書等ともポイントがアップした。しかし、学習環境については科目間における点数格差が著しい。曜日・講時によっては、受講人数に対する適切な広さの教室を確保が難しいので、時間割の作成時に授業の分散等の配慮が必要である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.4	0	0	8	30	29	4	WEB 履修登録の影響もあり、シラバスの事前確認は前年度より0.2 ポイントが高くなった。部分的に1 年次科目に低い傾向が見られた。
2	3.8	0	0	0	16	34	21	授業への積極性は、前年度と変わっていない。演習・実習系の科目の評価が高い一方、講義科目や多人数の科目での評価が低い傾向にある。
3	4.3	0	0	0	1	8	62	授業への出席状況は、前年度に引き続き、良好である。特に、演習・実習系の科目が良好である。逆に、1 時間目の授業では低めの傾向が見られた。
4	3.3	0	0	17	29	21	4	授業外での自主的な学習は、前年度と変化はない。実習や卒論に関係する科目で、ポイントが高い傾向にあるが、講義科目や多人数の科目では低い傾向にある。
5	3.5	0	0	1	33	32	5	授業とシラバスの一致については、年々ポイントが上がってきている。シラバスの事前確認と連動して高くなってきていることがうかがえる。
6	3.7	0	0	5	18	27	21	授業内容の理解は、前年度よりポイントが上がった。全体に評価のバラつきがなくなり、高得点の科目が演習・実習系を中心に増えたことが背景にあると考えられる。
7	3.8	0	1	2	14	23	31	説明の仕方は、前年度ポイントが下がったが、今回は以前のポイントに戻ることができた。専門科目でのポイントが高い傾向にある。
8	3.9	0	0	3	11	22	35	聞き取りについては、前年度ポイントが下がったが、今回は以前のポイントに戻った。全体にバラつきも減ったが、多人数の科目などで低い傾向にある。
9	3.6	0	0	4	18	34	15	板書等についても、今回ポイントが上がった。これまで低めであった演習・実習系の科目でのポイントアップが見られた。
10	3.8	0	0	3	9	35	24	配布資料・教材についてもポイントアップした。全体に学科教員による授業のポイントが高い傾向にある。
11	3.8	1	1	3	11	29	26	学習環境は、前年度ポイントが下がったが、今回以前のポイントに戻った。しかし、この項目が最もバラつきが多く、科目によって環境の良し悪しの差が激しい。
12	3.5	0	0	1	39	25	6	参考図書は、年々ポイントがアップしてきている。従来から指摘のあった建築系に加えて、保育系の科目もポイントが低い傾向にある。

3. 今後の方針

・シラバスの事前確認については、年々良くなってきているが、単に資格取得のための履修にならないよう

シラバスを確認して履修することの意義について1年次を中心に履修指導を徹底する。

・授業への出席、積極性については良好であるが、電車の遅延による遅刻への対応と資格科目については公欠が認められないので、その周知徹底と健康管理を含めた自己管理指導を行う。

・授業への積極性が高まることや授業外の学習が行われるようにするために、教員による学習意欲の喚起、課題の提示を図る。

・授業内容の理解については、各教員による授業改善への努力とともに、基礎ゼミを活用した基礎学力の向上や学習習慣の育成を図る。

・学習環境の改善を図るため、法改正後の新カリキュラムに関する図書の充実、視覚教材(ビデオ、DVD)の充実を図る。

1.概評

1つの項目を除いて、全体平均とほぼ同じか、やや低い値が出ており、大学全体の中で見れば例年より少し評価が下がったように思えて、少々残念である。しかし、個々の評価は依然高い値を維持しており、大きな心配はないものとする。またアンケート実施科目数が昨年度前期(114 科目)よりさらに増え、127 科目となったことは、非常に良い傾向だと考えられる。

[学生]

これまで本学科において、全体平均よりかなり低い値が出ていた「シラバスの事前確認」の自己評価が高くなり、全体平均に近づいてきた。これは、今年度から始まったWeb履修登録の良い方の影響であると考えられる。

[授業[内容]]

学生の評価は比較的高い値を維持しており、非常勤を含めた先生方の努力がうかがわれる。

[授業[教え方等]]

すべての項目で全体平均とほぼ同じ値が出ているが、それぞれ非常に高い評価であり、学生の授業方法に対する満足度は高いものと思われる。

[環境・設備等]

人数・教室の広さ等の学習環境についての満足度は依然高い。図書館の参考書の整備状況についても、今回、全体平均とほぼ同じ値が出たことから、学生の満足度が高まってきたものと思われる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.4	0	4	20	35	54	14	全体平均 3.5 より若干低いが、これまでの低い値よりかなり上がった。Web登録が始まり、学生が積極的にシラバスを見るようになった結果と思われる。
2	3.8	0	0	0	15	66	46	全体平均より若干低いが、比較的高い値を維持しており、心配はないと思われる。
3	4.3	0	0	0	1	20	106	本学で出席が厳しく義務づけられていることと、この結果を合わせると、この結果は当然ではないかと思える。
4	3.4	0	0	14	58	39	16	次第に改善されてきているが、まだ全体平均より低い値である。引き続き、授業外での学習の重要性を学生に知らせていきたい。
5	3.5	0	0	6	46	55	20	この項目は今回初めて全体平均を下回ったが、質問1と関連させると、学生がシラバスの内容をより詳細にみるようになった結果ではないかとも考えられる。
6	3.8	0	0	1	19	62	45	例年同様、比較的高い値を維持している。
7	4.0	0	1	0	19	40	67	今回、唯一全体平均を上回った項目である。先生方の授業中の努力に感謝したい。
8	4.0	0	0	3	15	37	72	これも非常に高い値がでており、先生方の授業中の努力がうかがわれる。
9	3.8	0	0	5	24	49	48	全体平均とほぼ同じ評価が出ている。なお、評価平均が「0.0」という科目が 1 科目あったが、このような値が出るはずがないので、機械の誤りだと思われる。
10	3.9	0	0	1	12	50	64	全体平均とほぼ同じ高い値が出ており、配布資料や教材についても学生の満足度は高いものと思われる。
11	4.0	0	0	2	12	31	82	非常に良い評価が出ており、学生の満足度は高いようである。少人数教育の効果が出ていると考えている。
12	3.5	0	0	4	45	68	10	今回初めて全体平均とほぼ同じ値となったが、依然として評価は高くない。

3. 今後の方針

- ☆ 授業の内容や教え方に関する項目(質問 5~10)で、良い評価を受けた科目群(全体の上位 1/4、約 30 科目)と、あまり良くない評価を受けた科目群(全体の下位 1/4、約 30 科目)の間で受講生数を比較したところ、全科目の平均受講生数32.62人に対して、良い評価の科目群の平均受講生数は 20~24 人であったのに対し、良くない評価の科目群の平均受講生数は 46~58 人という結果が出た。過去の調査でも同様の結果が出ており、学科の専門科目では 20 人前後のクラスが学生にとって最も良い効果が得られると考えられるため、今後も可能な範囲で、20 人程度の少人数授業を実施していきたい。
- ☆ 「シラバスの事前確認」の項目で、今回明らかに学生の自己評価が高くなったが、これは今年度から始まったWeb履修登録の過程で学生がシラバスをよく見るようになったためと考えられる。ただし、いまだに時間割と科目名だけを参考に履修を決めようとする学生も多いので、今後はこのような学生が少なくなるよう、クラスや学科全体の連絡会などで呼びかけていきたい。

1.概評

〔学生〕

授業に対する取り組み、出席状況については、高い評価を維持している。大部分の学生は、将来の進路を見定めた真摯な努力を続けている。受講前のシラバス内容の確認、授業外での自主的な学習についての項目の評価が、昨年度前期よりは向上しているものの、他の項目と比較して低く評定されている点は、引き続き、今後の課題となる。

〔授業〔内容〕〕

すべての項目について、昨年度前期よりも高い評価が出ている。授業内容がシラバスで予想した内容であったかという問いに対しては、上記のシラバス内容の確認とあわせて、今後の課題となる。

〔授業〔教え方等〕〕

すべての項目について、昨年度前期よりも高い評価が出ている。今後とも、授業技術の向上をめざして教員間での意見交換をすすめていく。

〔環境・設備等〕

図書館の参考書等についての設問の評価が向上している。図書館の利用率が向上していることをうかがわせる結果である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	0	5	29	42	20	シラバスへの意識改善は進んでいるが、まだ十分ではない。引き続き、ガイダンス等で、UP-SHOWA の活用を呼び掛けていく。
2	4.2	0	0	0	2	20	74	良好な評価である。学生の受講態度については、今後もこの状態を維持発展させるよう努める。
3	4.6	0	0	0	0	0	96	出席状況は一部の学生を除いて、全体としては良好である。欠席が多くなってくる学生については、クラスアドバイザーから早めの呼びかけをこころがける。
4	3.8	0	0	7	13	38	38	科目によるばらつきが出た。今後とも、基礎科目等で自主的な学習方法を指導するとともに、各科目の授業構成を工夫する。
5	3.7	0	0	1	20	45	30	シラバス確認の不十分さと連動している。受講者の反応その他でシラバス内容に変更が生ずる際など、シラバスの変更点を明示するよう心がける。
6	4.1	0	0	1	7	25	63	良好な評価である。今後とも、学生が理解しやすい授業をこころがける。
7	4.2	0	1	1	6	15	73	良好な評価である。今後とも、学生の実態に合わせた明快な説明にこころがける。
8	4.2	0	0	2	5	16	73	良好な評価である。今後とも、聞き取りやすい授業をこころがける。
9	4.0	0	0	4	5	30	57	良好な評価を得ているが、授業によって多少ばらつきがみられる。授業公開の機会などを利用して、効果的な機器の使用、板書の工夫などについて研鑽を深める。
10	4.1	0	0	1	6	20	69	良好な評価を得ている。今後とも引き続き、効果的な配布資料、教材等の作成にこころがける。
11	4.2	0	0	3	7	10	76	良好な評価を得ている。80 年館の学習環境については満足度が高いが、学生数の増加により、教室のキャパシティに対して、若干過密気味の教室も生じている。
12	3.8	0	0	0	16	50	30	改善がみられるが、まだ十分ではない。参考図書の実践について、教員が協力するとともに、図書館のリファレンス機能を活用するよう学生に呼び掛けていく。

3. 今後の方針

授業評価については、おおむね良好な状態を維持しており、学生が将来を見据えた着実な努力を積み重ねていることがわかる。今後とも、学生の進路希望に応じた多様な学習機会を提供していくようこころがける。カリキュラムについては、学科定員の増加に対応した微調整を行い、学生がストレスなく、自分の履修したい科目が履修できるよう改善を続ける。また、平成23年度以降のカリキュラムについては、保育士資格に関する法令改正を見越して、より個々の学生の進路に応じた学習が可能になるよう検討をすすめていく。

施設面については、学科定員の増加に伴って履修者が著しく増加した科目があり、若干過密気味の教室が増えてきているので、可能な限り、換気、空調をはじめとして、学生の良好な学習環境を維持していくよう努める。

学生生活の様々な面でのケアについては、クラスアドバイザーを中心に学科教員全員で学生についての情報を共有しながら緻密に行っているが、今後とも、個々の学生に応じたきめ細やかなケアを心がけていく。

1.概評

全体的に授業は良好な状態にあり、12項目中5項目において前年度の評価平均値を上回ったことから、各科目での改善がさらに進んだと考えられる。ただし、一部の講義系科目においては授業が理解できない傾向にある。

〔学生〕

授業には欠席をしないで積極的に取り組んでいる姿勢が認められるが、授業外で自主的な学習をしていないと答えた科目は、講義科目に多い。特に、教員が交代で入れ替わるオムニバス講義科目などについても教員間での引き継ぎなどを工夫して演習科目と同様に自主的な学習を促していく。

〔授業〔内容〕〕

理系の基礎科目については授業内容が理解できない傾向にある。これまで授業内容の見直しや学力レベルによるクラス分けなどを行い一定の効果がみられたが、入学時の学生の状況に合わせてより少人数制のクラス分けや教え方の工夫を進めていく。

〔授業〔教え方等〕〕

教え方は全体的には良好な傾向にあり、しかしながら理系基礎講義科目については、年々進む学力レベルのバラつきに対応して、さらに理解度を高めるための効果的な視聴覚教材の活用や授業内容の見直しをすすめていく。

〔環境・設備等〕

学習環境は概ね適切であるが、学習の理解度などの点でよりきめ細やかな対応が必要な科目については、教員との距離が縮まる小規模な教室などに変更するなどの工夫を検討する。また、自主的学習の助けとなるような参考図書を充実させていく。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。各欄下段細字は前年度データ。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	0	3	42	63	20	学科平均は3.6で、前年度よりも0.1上昇した。今年度より導入授業が廃止されweb登録制になったことも大きく作用して受講前のシラバス確認が促進されたと思われる。
2	3.9	0	0	0	23	50	55	平均は昨年並みだが、4以上の高評価の科目が増え、学生は積極的に授業に取り組んでいる姿勢がみられる。特に演習科目でその傾向が強い。
3	4.1	0	0	0	6	39	83	出席状況は4以上が最も多く、良好。中でも演習科目は、欠席が個々の学習進度に大きく影響するためか、出席が良好の傾向がある。
4	3.6	0	1	9	48	36	34	演習科目を中心に自主的な学習を行っており、前年度よりやや良好である。理解の進みにくい科目については、課題を出して自主的な学習を促していく。
5	3.6	0	0	1	40	64	23	平均値は前年度より0.1上昇し、シラバスは全体的に予想通りの傾向にあると。全学的、組織的な教員への呼びかけも功を奏し、シラバスがより充実した傾向がうかがえる。
6	3.7	0	0	4	38	52	34	平均値は前年度より0.1上昇している。授業を理解できない傾向にある基礎科目については、入学時の状況の変化に合わせて、さらにクラス分けや教え方の工夫を進める。
7	3.8	0	1	3	28	47	49	全体的には「説明は明快」と答える傾向にあり、3未満の科目がかなり少数となった。しかしながら学力の差がより開いてきていることから、さらにわかりやすい授業方法の検討を進めていく。
8	3.9	0	1	2	22	49	54	平均値は前年度と変わらないが、マイナス評価科目が減りプラス評価科目が増加して、全体的に授業は聞き取れる傾向にある。多人数クラスを中心に、マイクの導入や話の速度など改善を進めていく。
9	3.7	0	0	4	36	53	35	前年度より0.1上昇し、板書や教育機器の使い方は概ね適切な傾向にある。授業を理解しにくい授業では、これらの使い方を検討する必要がある。
10	3.7	0	1	2	27	66	32	平均値は前年度と変わらないが、高評価科目が増え、配布資料は適切な傾向にある。授業内容が理解できない学生は、不適切と答える傾向にあるため、理解度の低い科目ではさらなる教材等の検討も必要である。
11	3.9	0	0	2	22	57	47	2.5未満の科目がなくなり平均も前年度より0.1上昇して、学習環境は全体的には適切な傾向にある。3未満の科目に関してはさらに改善の方法を検討する。
12	3.4	0	1	0	70	51	6	平均値は前年度と変わらないが、高評価科目が増えた。授業の理解が進みにくい科目については、自主的学習を進めるために、特に推薦図書を奨励していく。

3. 今後の方針

昨年度各評価科目の学科平均ポイントが上昇したが、今年度はアンケートをもとに各教員が工夫改善を重ね、さらに5項目で学科平均値が向上した。

しかしながら一部の理数系科目では授業が理解できない状況がみとめられている。

理系の基礎科目については、平成19年度より入学時の基礎学力テストをもとにある程度のレベル分けをして複数教員で担当する方法をとっており、これによる一定の効果がみられてはいるが、現在の入試形態では理系が苦手でも入学できることから、ここ1, 2年、現状のクラス数ではフォローしきれないほどの学生間のレベル格差が進んでいる状況である。また、苦手な学生ほど学習へのモチベーションが低いケースが多く悪循環を生んでいるが、これらの科目は、2年次以降の専門科目の基盤となるので、このような理系に弱い学生に対する初年度教育が課題である。対策としては、より少人数でじっくり教えることも検討するとともに、視覚的な授業方法やテキストの見直し、また、復習に活用できる教材の Web での提供など、学力不足の学生に対しさらにサポート体制を強化していく。

1.概評

新学科新1年次学生と編入学生の初めての評価である。やや、厳しい評価となり、この結果を今後どのように活用していくか、検討の必要を痛感した。

[学生]

授業には積極的に参加している様子が見えなかった。自主的な学習がやや不足しているようである。

[授業[内容]]

内容の理解について、評価が低かった。原因を検証する必要がある。

[授業[教え方等]]

非常に厳しい評価であった。大学の講義に慣れていないためか？検討の要あり。

[環境・設備等]

まずまずの評価であった。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.2	0	0	9	21	6	0	シラバスについて、確認をすることはできても、どのように活用するか、十分な意識付けがなされていなかったようである。今後も指導を行う。
2	3.9	0	0	0	5	13	18	授業に積極的に取り組む姿勢がみられた。今後もこの状態を維持・発展させることができるよう、努める。
3	4.4	0	0	0	0	2	34	出席状況は良好である。この状態を維持・発展させることができるよう、努める。
4	3.4	0	1	2	20	11	2	自主的な学習への取り組みを促すよう、折に触れ指導する必要がある。
5	3.3	0	1	4	15	15	1	基礎科目の評価が主であることから、学生の震度によって内容が変更となる場合もある。この点を考慮すると、概ね良好であった。
6	3.5	1	2	2	4	17	10	基礎科目の評価が主であることから、No.4 の評価をにらみつつ検討する必要がある。いずれにせよ、この評価をどう指導に生かすか、今後の大きな課題である。
7	3.7	2	0	3	4	10	17	評価が分かれた。学生の能力に幅があるということか。No.6 同様、今後の検討課題である。
8	3.8	0	1	4	4	7	20	声が聞き取りにくかったか、内容がわからなかったからなのか、検証の必要がある。
9	3.6	0	1	4	8	12	11	No.6, 9, 10 の評価を向上させるために、まず No.4 を向上させることが必須と考える。
10	3.7	1	1	2	5	12	15	同上
11	3.9	0	0	0	6	12	18	教室内の環境は概ね良好で、聴く環境は整っているようである。これは、評価に値する。
12	3.4	0	0	5	1	13	2	図書館を利用しようという姿勢が見受けられ1年次学生の評価としては良好であると考えられる。

3. 今後の方針

健康デザイン学科は1年次学生70数名と3年次編入の数名による評価である。1年次学生は前期に基礎系の科目しか履修できないため、個々の学生のバックグラウンドにより、評価が分かれたと推察される。今後、基礎系科目に能力別のクラス編成を導入するなどの検討が必要と考える。

1.概評

出席に関する 1 項目,環境に関する 1 項目以外,すべての項目で前年度を上回る評価となり,改善の努力が実っていることが明らかとなった。

[学生]

例年,シラバスの確認を怠る学生が多い事が悩みの種であったが,この点に進歩が見られた。

[授業[内容]]

学生が自主的に,積極的に取り組む姿勢がみられた。

[授業[教え方等]]

すべての項目で昨年度を上回っており,授業改善に対する教員の意識も高まっていることが見うけられた。

[環境・設備等]

図書について,なかなか評価が上がらない。図書館の利用がレポート提出時など一時に集中するからであろうか。この点については今後も努力を要する。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.2	0	2	4	26	7	1	昨年に比べ 0.2 ポイント上昇した, web 登録が始まったためとも考えられるが, 今後もこの傾向を維持できるよう努める。
2	3.8	0	0	0	5	19	16	例年通り, 授業には積極的に参加したと評価していた。
3	4.4	0	0	0	0	5	35	出席は良好。今後もこの状況を維持できるよう努める。
4	3.4	0	0	7	19	11	3	昨年に比べ 0.1 ポイント上昇した。今後もさらに自主的に学習に取り組むよう, 指導する。
5	3.5	0	0	1	20	18	1	シラバスの確認について評価が向上し, それに伴いシラバスの意義・活用についても理解されるようになった。
6	3.7	0	0	1	7	21	11	概ね良好。特に昨年に比べ 3.0 未満が減少したことは, 学生の自主学习と教員の努力の成果と評価できる。
7	3.8	0	0	1	6	16	17	概ね良好。ポイントも向上し, 3.0 未満の評価も減少した。引き続き授業改善に努める。
8	3.9	0	1	0	2	17	20	低い評価が激減したことは, 音響設備の充実ゆえ。実験・実習中に関しては, 工夫を要する。
9	3.7	0	0	1	11	18	10	OHP, PP については評価が向上し, 概ね良好である。各教室へのスクリーンの配備をお願いしたい。
10	3.8	0	0	1	5	18	16	配布資料, 板書についても評価が向上した。今後も維持できるよう努める。
11	3.9	0	0	0	5	14	21	概ね良好である。今後も維持できるよう, 努める。
12	3.5	0	0	1	17	20	2	レポート提出時に書籍の利用が重なるためなかなか向上しない。今後も図書館のご協力の下充実を努める。

3. 今後の方針

生活科学科食物健康学専攻は、今後上級学年のみとなる。学生の苦手な基礎科目がなくなることから、評価は向上しやすくなると考えられる。しかし、一方で、新学科との同時開設科目なども増えることから、学生のモチベーションの維持が課題である。

1.概評

今年度から、生活科学科の管理栄養士専攻と新設の管理栄養学科の評価が合わせたデータの提供がなされていたので、前年度の生活科学科の前期の評価と本当の所は比較はできないが、傾向として比較検討した。各設問共に評価が高くなっている。管理栄養士を目指す目的が一緒の学生達の評価であり、ばらつきがあまりなく、評価が偏り、結果として顕著に現われたため、評価が高くなっていると思われる。

[学生]

例年通り、授業への出席は良好で、特に実験実習への取り組みに評価が高いので、積極的な取り組みがなされている。授業時間が長いので、授業外での自主的な学習は授業内に比較すると評価は低いですが、経年的にみると、教員の支援などで学生自身の意欲の高揚が評価として見られる。

[授業(内容)]

栄養士養成課程の授業内容は一定であるので、シラバス通り、授業は進められているが、様々な学生の理解力に合わせて授業を行うため、授業の進め方・内容等にも柔軟な対応がされていると考えられる。内容の理解力等には学年差があるので、今後も学生の現状に合わせた内容の組み立てが必要と思われる。

[授業(教え方等)]

概ね良好である。教え方の評価は、ハード(教室・実験実習室、AV 教材の設備など)の面も重要でそれを効果的に使用できる担当者の技量も関係づけられる。今後も常に学生の学習意欲が高められるような授業展開を考えていく。

[環境・設備等]

栄養士養成課程における一授業の受講数は、上限40名と制限があるため、学ぶ環境としては概ね良好である。設備、図書については学生・教員の要望を把握し、関係部署のご協力を仰ぎながら、充実を図っていきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.2	0	2	11	37	10	2	若干、改善が見られたが、国家試験対策の評価が低い。3年生以上の資格科目、選択科目における評価は高いので、シラバスの重要性を引き続き、指導していく。
2	4	0	0	0	3	19	40	例年通り、授業への取り組みは積極的であるとの評価であるが、特に実験実習への評価が高い。講義も含め、さらに積極的な取り組みを期待する。
3	4.6	0	0	0	0	1	61	例年通り、12設問中、一番、評価の高い設問であり、意欲的に授業に出席したことを評価したい。今後もこの状態を維持できるように促していく。
4	3.6	0	0	5	10	39	8	授業中の意欲的な取り組みに比較して評価は低い。教員からのアドバイスや項目12共合わせ、環境整備も考え、自主的な取り組みができるように支援していく。
5	3.6	0	0	3	19	34	6	項目1と合わせると、シラバスの確認と活用がなされない授業は評価が低い。項目1で評価の低い者は項目5でも低い評価になるので、設問と回答に検討の要あり。
6	3.8	0	0	1	6	31	24	項目4と合わせ、3年以上の資格・選択・実験実習科目は評価が高い。学年によって理解度が違うので、学年差を意識して自主的な学習を促す必要がある。
7	3.9	0	0	2	10	17	33	授業は概ね明快であると評価されたので、今後もこの状態を維持するように努める。
8	3.9	0	1	3	2	21	35	項目11と合わせ、概ね、聞き取りやすいと評価された。しかし、教室の広さ、受講数、マイク設備等の設置状況を加味して今後、さらに評価を高める必要がある。
9	3.7	0	0	5	10	29	18	例年通りの評価である。授業内容によって、板書、AV教材の使用することの効果が違うので、学生の理解は正当な評価である。今後も効果的な使用を期待する。
10	3.9	0	0	2	6	26	28	項目6と関連性が認められたので、配布資料、教材等のさらなる工夫を行い、学生の授業内容の理解を支援することが必要である。
11	4.1	0	0	0	2	16	44	学習環境に対する評価は高い。しかし、マイク設備やAV教材等が設置されていない教室、実験実習室の設備を望む。
12	3.7	0	0	1	11	42	8	特に他項目との関連性は認められないので、概ね、良好な評価が得られた。自主的な学習を促すため新書や複数本の充実を図ることが必要である。

3. 今後の方針

前述した通り、今年度から生活科学科の管理栄養士専攻と新設の管理栄養学科の評価が合わせたデータが提供されたので、そのデータと昨年度前期のデータと比較検討した。今回のデータは管理栄養士養成という目的の統一が図られ、今後の授業運営を考える上においても参考になる評価になった。

今期は全般的に良好で、概ね評価は高い。

特に項目2(教室内での取り組み)や項目3(出席状況)は、授業内での積極的な取り組みがなされて学生は意欲的な学習を行っていると思われる。しかし、項目1(シラバスの確認)、項目5(シラバスの内容)の評価が他の設問に比較して低いことには、今後、改善をしていく必要がある。

栄養士養成課程の内容は一定であり、大幅に逸脱することはできないので、学生がシラバスを確認せず、授業に臨むことは常に予想されている。授業内容を様々な学生の理解度を合わせるために柔軟な対応をすることも必要であるので、今後とも授業展開について検討していきたい。

授業改善を行うためには、学生の自主的な取り組み、教員の授業展開の能力の他に、学習の環境づくりも大切な要因であるので、環境整備も検討していきたい。

1.概評

大学全体平均と本学科平均を比較すると、No.4, 6, 9,12 でわずかに下回るものの、大幅に下回るものではなく、またほかの項目ではすべて本学科が同等もしくは上回っている。

[学生]

シラバスの確認は概ねなされているが、一部の科目で低い評価となったが、その殆どが1年次必修科目であり、シラバスを確認せずに授業に臨んだように思われる。出席状況は比較的良好である。授業に積極的に取り組んだという学生も多い。一方で、授業外で自主的な学習をした、という点について、低い点数が目立つ。科目を概観すると、一部の資格科目について評価が低いことが問題と言える。

[授業[内容]]

授業内容については、一部の科目で、シラバスで予想した内容と異なる、あるいは内容が理解できなかった、とあるが、概ね評価は良好であり、特に問題は見られない。前者についてはシラバスと授業内容の一致に一層勤めることで対処したい。

[授業[教え方等]]

教え方については、説明が明快であった、聞きとれた、のいずれの項目についても一定の評価を得ている。板書、OHP、パワーポイントについて、評価の低い科目がわずかに見られたが、授業の性質によってこれらの機材を使わない場合もある。

[環境・設備等]

教室の広さは概ね良好との評価を得ている。一部の科目で、図書が足りないという評価を受けているが、担当教員に依頼して、参考図書の充実に努めたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	1	3	29	81	25	シラバスをよく確認している。WEB 履修となり、授業計画を事前にする必要が出てきたからだと思われる。一部、必修科目について、シラバスを確認しない傾向が見られたため、必修についてもシラバス確認を促したい。
2	3.8	0	0	0	18	64	57	授業に積極的に取り組んだと自己評価する学生が多い。3未満の科目がなく、このままの水準を保ちたい。
3	4.1	0	0	0	4	30	105	多くの学生が出席した、と自己評価している。一部の学生が、多くの科目で失格となるケースがほとんどである。
4	3.4	0	1	15	64	43	16	他の項目より評価が低い。課題を定期的に課すなど、授業外での学習を促す工夫が必要だと思われる。
5	3.6	0	0	4	34	82	19	No.1 の評価が正しいとすれば、シラバスを読んだ上での回答と思われるが、題名だけを見て授業を履修する学生も少なくない。シラバス確認を促すとともに、シラバスと授業内容を一致させ、学生に誤解を与えないように明快に記載することが必要だと思われる。
6	3.7	0	0	3	28	60	48	授業内容が理解できない科目は、資格科目がほとんどであった。学部の上級学生とともに履修する科目もあり、それが原因の一つと考えられる。
7	3.8	0	0	2	25	57	55	説明の明快さについては大学の平均とほぼ同等である。教員が授業形態を工夫することはもちろんだが、同時に No.4 の評価の低さも原因と考えられる。授業を理解するために、学生が授業外で学習する時間を増やすような授業をすることも必要だと思われる。
8	4.0	0	0	1	14	51	73	他の項目より高い評価となっている。話は概ねよく聞き取れており、問題はないように思われる。低い評価の科目は120名以上の学生が履修していたため、聞き取りにくさが生まれたと考えられる。
9	3.8	0	0	4	32	53	50	大学の平均をやや下回ったが、概ね良好である。板書、OHP、パワーポイントを使わない授業が低い評価となった可能性もあり、正確な判断は難しい。

10	3.9	0	0	1	15	68	55	教材については、ほぼ問題ない、という評価を得ている。低い評価となった科目は、専攻科生のみが選択で履修する他学科科目である。
11	4.0	0	0	2	15	44	78	教室の広さの適切さについては高い評価を得ている。低い評価の科目は、1つは広すぎ、1つは収容人数以上に学生が履修していたことが分かった。設備の問題や空き教室状況により適切な教室に変更していくことで解決できるのではないかと。
12	3.6	0	0	3	55	69	12	参考図書については、あまり高い評価ではなく、図書館や学科などで、参考となる図書を揃える必要があると思われる。基本的な学習図書について、教員それぞれが推薦図書の希望をだし、充実を図っていくことで次第に問題は解消されると思われる。

3. 今後の方針

今後も、学生の評価を受け止め、改善のよりどころとし、よりよい授業運営の参考とするように、教員に周知する。

1.概評

全体平均とほぼ同様な結果である。昨年度後期よりもいずれの項目もポイントが高くなっている。これは、学生も、教員も真剣に授業に取り組んでいることの現れと思われる。

[学生]

栄養士の免許の他、栄養教諭、家庭科教諭、フードスペシャリスト等の資格取得という目的意識をしっかり持ち、勉学に励んでおり、出席も良好である。免許・資格関連科目が多いためか、事前のシラバス確認が徹底されていない。オリエンテーション・HRなどを活用し、喚起したい。

各教科ごとに、課題やレポート提出が課せられており、授業時間外にもかなりの時間を使い勉強しているのだが、その学習を自主的学習ととらえておらず、自主的学習の評価が低かったと思われる。特に講義科目において自主的学習を促す工夫が必要と思われる。

[授業[内容]]

学生の理解度はクラスや、科目による差も生じている。学生の得手不得手や学生間の理解力の差も踏まえ、個々人への対応など授業担当者のさらなる取り組みに期待する。

[授業[教え方等]]

教材、資料、power point 等を効果的に用いた授業への取り組みが評価され、昨年度よりポイントが高くなりおおむね良好である。

[環境・設備等]

昨年度よりもポイントが高くなりおおむね良好との評価を得た。しかし、教室内、机まわり等の学習環境整備への個々人の意識の欠如が著しく、公私の区別、持ち物の自己管理等今後の指導課題である。一部の教室、実験・実習室によっては、十分なスペースを確保できていない現状がある。また、参考図書については、授業担当者が必要な図書の確認を行い、さらなる整備充実に向け、図書館へ働きかけていくことが必要である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.4	0	1	6	23	9	2	免許・資格関連の必修科目が多いためと考えられる。昨年後期より向上がみられた。さらに呼びかけをしていく。
2	4.0	0	0	0	2	15	24	科目、クラスによる差は見られるが、昨年後期より若干ではあるが向上が見られる。さらに発展させていくよう努める。
3	4.4	0	0	0	0	2	39	全体的に出席状況は良好である。一部の学生には学科内で連携を密にして指導を実施していく。
4	3.4	2	3	15	3	17	1	実験・実習・演習科目は、レポート作成などもあり、ポイントが高い傾向がみられる。講義科目においても、自主的学習を促す指導を実施する。
5	3.6	0	0	0	18	19	4	シラバスの事前確認のポイントが向上した分、昨年後期よりもポイントが高くなった。今後もシラバスの事前確認を習慣化できるよう指導する。
6	3.7	0	0	0	9	21	11	クラスによる理解度の差はあるものの、昨年度前・後期より向上がみられる。
7	3.9	0	0	0	4	19	18	おおむね良好な評価を得ている。
8	3.9	0	0	0	6	13	22	おおむね良好な評価を得ている。
9	3.9	0	0	0	6	19	16	科目、クラスによる差はみられるが、おおむね良好の評価を得ている。今後とも授業改善の工夫に努める。
10	3.9	0	0	0	1	25	15	昨年度前・後期よりも向上がみられ、おおむね良好の評価を得ている。さらなる工夫・努力をはかる。
11	4.0	0	0	0	0	18	23	おおむね良好の評価を得ている。
12	3.6	0	0	0	17	21	3	昨年度後期よりも若干向上したが、自主的学習を促すためにもさらなる参考図書の充実整備にむけ教員も積極的に協力したい。

3. 今後の方針

- 学生の能力、理解度の二極化のみならず、生活態度や精神面においても個人差が非常に大きくなっているため、授業の進め方が難しくなっている。理解できない学生や、欠席の多い学生には個別に対応していく方法を講じたいと考えている。また学生の社会性(公私の区別、環境や周囲への配慮等)についても日常生活を通して修得させていきたい。
- 学生の評価は同じ科目であってもクラスによりかなりの差が生じている。この対応として、まず、授業に主体的・積極的に取り組む姿勢をしっかりと植えつける工夫が肝要と考える。
- 本学科は、必修科目が多いため、シラバスの事前確認率が低かった。今後は学期初めのオリエンテーションやHRを活用し、指導を行いたい。

1.概評

全体平均に比しても概ね良好な結果と言える。

[学生]

受講態度は、熱心な学生とそうでない学生との間での開きが、さらに近年増してきているように思われる。

この状況はアンケート回答にも見受けられ、真面目に回答したとは思えない個票があることが教員から報告されており、「授業評価アンケート」が形骸化しないように、アンケートの目的と集計結果の活用等については、学生に十分理解されないとならない。

[授業[内容]]

概ね良好である。引き続き各教員に充実した授業展開をお願いしていく。

[授業[教え方等]]

学生からの苦情があるのは、「実践倫理」のみである。1年次必修科目であり1,500名を超える受講生がおも場所もホールで行っている授業のためにやむを得ないとはいえ、学生自身がお互いに私語をしないように注意し合えるように、受講態度を改善していくことは懸案事項である。他の科目については特に問題はない。

[環境・設備等]

教室の大きさにより、授業評価アンケート回答への影響は多少見られるが、先生方のご努力で概ね良好な環境の下で授業が円滑に行われている。映像機器等の視聴覚環境はかなり整備されており、問題はない。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	2	23	80	35	シラバス熟読がまだ徹底されていない点は、今期からのWEB登録上、課題である。全体平均値より0.3ポイント高いとは言え、一般教養科目だけでなく、大学全体でさらにシラバス熟読・活用を指導していく必要がある。
2	3.8	0	0	0	22	60	58	平均値は前回と同じ結果であり、おおむね良好である
3	4.3	0	0	0	0	9	131	平均値は前回と同じであり、ポイントは高く良好である。
4	3.2	1	3	31	85	17	3	前回アンケート結果から0.1ポイント下がり、大学全体の平均値からは、0.3ポイント低い結果である。専門科目に比して自主的学習への取り組みは弱い現状が明らかであり、積極的な課題提示等の工夫を行っていくことも対策の一つである。
5	3.6	0	0	8	36	66	30	前回の結果と同じ結果である。科目によってはシラバス作成以降に、新しい資料、データ等を適宜授業に取り入れていることを学生が理解していくことも必要である。
6	3.8	0	0	3	25	50	56	概ね良好である。
7	3.9	0	0	5	16	41	78	概ね良好である。
8	4.0	0	1	0	12	37	90	概ね良好である。
9	3.8	0	0	4	31	52	53	ほぼ良好であるが、さらに非常勤教員にも授業展開の工夫をお願いしていく。
10	3.9	0	0	1	20	51	68	概ね良好である。
11	4.0	0	0	0	10	49	81	前回よりも0.1ポイント高い結果であり、良好である。
12	3.5	0	0	6	73	54	7	幅広い一般教養科目の関連図書を増設していくことは予算の問題とも関わるが、先生方には積極的に図書を推薦いただき、図書館へ購入依頼を行って、自主学習環境を整備していく。

3. 今後の方針

特に非常勤教員が多いために、事務的連絡等、授業運営にかかわる連絡事項について、理解度に温度差が見受けられことがある。全担当教員が共通理解のもとに授業を実施できるように、連絡事項等については、さらに周知徹底を図っていきたい。

今期から開始となったWEB登録によって、これまで多かった学生の不満(一般教養科目が履修できない)という問題は解消の方向に向かっているが、学生には平等に履修チャンスが与えられるように、現況把握を行いながら、魅力ある一般教養科目群の形成をめざしていく。

1.概評

例年大きな変化はない。

[学生]

数字をみるかぎり, 学生は講義に満足し, 勉学に励んでいるようである。

[授業[内容]]

数字は横ばい。数値が乱高下するような設問ではない。

[授業[教え方等]]

数字は改善している。教員の努力のたまものと信じたいところ。

[環境・設備等]

設問 11 に対する回答として, 少人数クラスを増やしていきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.4	0	5	45	69	85	37	かなり改善されている。
2	3.9	0	0	0	15	121	105	数字はいいが, 実態をどれだけ反映しているか疑問。
3	4.3	0	0	0	0	20	221	履修放棄した学生は省かれるので妥当な数字。
4	3.6	0	0	13	75	115	38	信じがたい数字。
5	3.5	0	1	8	98	108	26	外国語科目は基本的に教材の目次どおりに講義が進行するのだから, 当然の結果である。
6	3.7	0	0	10	51	119	61	信じがたい数字。
7	3.9	0	2	8	29	91	111	教員各位が努力した結果。さらに精進したい。
8	4	0	3	5	20	75	138	良好。
9	3.8	0	1	8	35	110	87	高い評価で, 特に問題なし。
10	3.8	0	0	5	29	112	95	教科書中心の講義に対して無意味な設問である。
11	4	0	0	2	9	79	151	入門は 40, 中級は 30 人を上限と定めたわれわれの成果。今後さらに小人数化を進めたい。
12	3.4	0	0	8	140	86	7	図書館が活用されているか大いに疑問。実態を反映した数字とは思えない。

3. 今後の方針

シラバスならびに便覧を学生みずから閲覧するよう指導する。履修登録は大学での勉強の第一歩であり、そのため学生便覧とシラバスを精読するようながす。履修登録の際、一部の怠惰な学生を救済することが学生指導なのではないことを肝に銘じるべきである。

1.概評

概ね良好であったと言えるが、問 01 から問 12 の全項目で学科平均を上回るものが5科目あった一方で、全て下回るものが4科目、1項目を除いて下回るものが3科目であり、今回対象の 25 科目の 28%において個別対応的に改善を図る必要がある。全項目で 4 以上の科目は2(全科目の 8%)であった。

[学生]

本学の特色を反映して「出席状況」の評価は高く、授業への積極的な取り組み姿勢も見られるが、「自主的な学習」を促し、受動的に授業に参加しているだけに終始しないようにすることが今後の課題となる。

[授業[内容]]

「授業前にシラバスを確認したか」と「授業内容がシラバスで予想したものだったか」の回答が、ほぼ同傾向であった。「授業内容の理解」も近似傾向で、授業内容の妥当性等の評価については、より精緻な検証が必要になる。

[授業[教え方等]]

3科目で問 07 から 10 の 4 項目の平均が 3.5 以下で、特に「説明の明快さ」に欠点が窺える。この数値だけで推し量ることは困難であるが、IT 活用に熱心な傾向の一方で、教職にとっての基礎力である「話す力」が弱体化しているのかと思われる。

[環境・設備等]

教室環境や受講者の人数などでは、特段の問題点は指摘されていない。参考図書の整備については、低い評価(3.4 以下)が相対的には多かった。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	4	12	9	最高でも 4.6 に留まり、最低は 3.0。低学年で履修可能な科目が、相対的に低い。「促し」が必要。
2	4.2	0	0	0	0	7	18	「教科教育法」の2科目が 4.8 と 4.7 と高水準で、具体的・実践的授業への意欲の高さが示された。
3	4.5	0	0	0	0	0	25	全ての科目で 4.5 以上であり、4.9 が1科目、4.8 が3科目と、今後もこの水準を維持したい。
4	3.7	0	1	1	7	10	6	学科平均値で最も低い結果となった。特に、同一教員の担当2科目で 3.0 を割り込み、最高も 4.6 止まり。
5	3.9	0	0	0	3	11	11	シラバスとの内容一致については問 01 と同じ数値であった。シラバスが「予定表」ではないとの認識が必要。
6	4.1	0	0	0	3	6	16	評価値が 3.5 未満の3科目は、次の問 07 の結果と同一。「説明を聞いて⇒理解できる」ことは必要条件。
7	4.2	0	0	1	2	4	18	評価値が 4.9～2.9 と格差が大きい。他の同一科目と比較すると、低い値は担当教員によるものと判断される。
8	4.3	0	0	1	0	6	18	問 07 同様、4.9～2.7 と今回調査で最も格差が大きかった。個別対応が必要と思われる。
9	4.1	0	0	1	1	8	15	この問いへの評価格差は 4.8～2.9 で、全般的には方法技術上の大きな問題点は少ないと思われる。
10	4.2	0	0	0	3	5	17	新聞コピーやパワーポイントのスライド印刷に留まらない配布資料や教科書の活用の工夫が必要な科目あり。
11	4.3	0	0	0	0	5	20	環境整備に関して、学生が強く求めていることは見つかからないが、より充実させる努力は怠ってはいけない。
12	3.8	0	0	0	5	13	7	「自主的な学習」に次いで 4.0 以上が少ない。最新の教職関係図書の充実が必要である。

3. 今後の方針

① 「授業改善アンケート」の結果を、100%そのまま受け止めることはできない。しかし、学生の回答には信憑性がないとの先入観で臨むことも、また教師の傲慢さであり、誤りである。兎角教師は、学生・生徒を評価することには熱心だが、自らが評価されることには消極的で、抵抗感もある。大学教師は研究者の意識が強いため、尚更である。これまでの「授業評価に関する研究・調査」などに拠れば、極端な少数を除外すれば、謙虚にその声に耳を傾けるべき提言が示されている。信頼度はあるとみてよい。

従って、まず自身の担当科目の結果、及び学科全体の結果を誠実に受け止めることが肝要である。そうした啓蒙を図っていく。

② 科目の性格や特徴(例えば法規科目であるとか教科教育法であるとか)により評価値が上下する訳では無いことは、担当教員の異なる同内容科目の結果が共通しないことで明らかである。また、「概評」で既に述べた通り、全ての問いに対する回答が学科平均を下回るものが4科目あったことから、特定の科目・担当教員に低い評価値が集中していることが示された(専任教員2名・非常勤教員1名)。科目の種類は多様であったので、個々の教員に事情や背景の分析をお願いし、改善を図りたい。

③ 評価対象となった25科目の総履修者は873名で、履修者数が50名を超えたのは7科目(内訳は81名, 78名, 74名, 64名, 58名, 55名, 54名)、履修者数が20名未満だったのも7科目(内訳は8名, 10名, 15名, 17名, 18名2科目, 19名)である。これらの中で、81名、74名の科目が相対的に高い評価であったのに対し、10名の科目では低い評価であり、履修者数の多少による影響は見られなかった。最高でも81名であり、この結果により履修者の調整を図ることは、直ちには必要無いと言える。

④ 改めて、教職科目の授業のあり方について研究し、より充実した授業の開発を図っていききたい。後期の結果との照合、及び次年度前期との比較検討なども必要であり、現時点で多くの対応を考えることは難しい。